

東アジアにおける「持続可能社会」の実現に向けて
ー第3回東アジア首脳会議(EAS)における
日本の環境協力イニシアティブー

1. 低炭素・循環型社会の構築 ー温暖化・公害対策と経済的自立の両立ー

(1)「美しい星50」の下で、本年1月に表明した省エネ等の協力を推進するとともに、温室効果ガスの排出の抑制と経済成長の両立を目指す途上国に対しては、新たな「資金メカニズム」により、政策支援を行い、気候変動の緩和、適応、クリーンエネルギーの利用促進に向け協力。

(2)循環型社会構築への協力

- ・「アジア3R研究・情報ネットワーク」を構築し、政策・経験の共有を通じて各国の3Rの取り組みを支援。

- ・3R及び廃棄物の適正処理の推進に向け、アジア各国より今後5年間で500名以上の研修員を受け入れ。

(3)水質汚濁、大気汚染等の公害対策のため、今後5年間で、20億ドル規模の資金協力及び500名以上に研修を実施。

2. 豊かで多種多様な自然との共生

(1)森林の保全

- ・日本の観測衛星等の情報を活用した東アジアの森林資源管理を支援。

- ・世界銀行の「森林炭素パートナーシップ基金」に最大で1千万ドルを拠出。この基金を通じ、温室効果ガスの排出の抑制と経済成長の両立を目指すアジア地域等の途上国の豊かな森林の保護が図られることを期待。

(2)サンゴ礁保全のため、各国と協力して「重要サンゴ礁ネットワーク戦略」を策定。

(3)日ASEAN間で「環境対話」を実施し、その中で、日ASEAN統合基金(JAIF)を優先的に活用して以下を含む協力を推進。

- ・「ASEAN持続的環境都市賞」への支援。

- ・アジアの豊かな自然と開発を両立させるエコ・ツーリズムの促進。

- ・ASEAN域内の生物多様性保全に向けた事業への支援。

3. 将来に向けた環境保全の知的インフラ作り

- (1) 温室効果ガス観測技術衛星を来年度に打ち上げ、観測データを各国に提供。
- (2) アジアの環境リーダーを育成するため、日本国内の大学院と協働して、東アジアにおける環境分野での大学院間のネットワークを構築。
- (3) 「21世紀東アジア青少年大交流計画」(JENESYS)を活用し、訪日するアジアの高校生に日本の環境対策の現場を体験する機会を設けるとともに、環境関連分野を履修する大学院生を今後4年間で500人以上招へいし、環境教育に貢献。
- (4) 深刻な環境汚染の現場に要請を受け直ちに赴き、対応策の検討を東アジア各国と共に行う環境専門家チームを形成。

